

〔看聞日記〕應永廿三年九月廿日、月見岡松茸新御所椎野以下取之、予崇光後依違例不參、

〔親俊日記〕天文七年五月十九日辛卯、細典廐より五松茸一折御進上、

〔老人雜話〕山城の内山里と云所を、梅松と云坊主に預けらる、新に松を植、程も無に松茸生じたりとて獻上す、太閤秀吉豊臣臣笑て曰、吾威光誠にさもあらんと云、其より數度獻す、實は他所より求

て獻す、太閤左右の者に云、もはや松茸獻することやめさせよ、生ひ過るとのたまふとぞ、

〔昨日は今日の物語〕一物ごとに心をつくる人の申されしは、當代御はつとなきとて、竹のこを

ねびきにして、たくさんにもてあつかふこと、をしき事じや、三年めには、見事の竹になるにと申

されければ、みなく聞て、これはおほせのごとくをしき事ぢやといはれける、又そばなる人の

申されしは、總じて松だけなども、むぎとたぶるはいらざる事ぢや、二三十年おいたらば、大木に

ならふものをと申された、

一吉田殿の山に松だけがはへ候へども、松だけの有よしよそへ聞え候へば、むつかしきとて、ふ

かくおんみつなさるゝ、さりながら長をかゆうさいへは、すこしつかはさるゝとて、これはわれ

らが山におえ候へども、世上へはおんみついたし候へども、其方へハまんじ候、よそへ御かくし

候へとて、つかはされければ、ゆうさいきやうかをあそばされ、
松だけのおゆるをかくすよし田殿わたくし物と人やいふらん

〔駿府政事録〕慶長十六年九月廿五日、松茸一籠、紅柿二籠、自京板倉伊賀守勝重獻之、

〔日次紀事九月〕仁和寺門主、大覺寺門主、三寶院門主所領之山中松茸多生、故被獻禁裏院中、凡松茸

洛外處々有之、其中龍安寺山、嵯峨山所産爲美、凡有松茸山之人採來贈親戚朋友、

〔寛政四年武鑑〕保科越前守正率飯野上總總時獻上四月濱松茸 本多隱岐守康完膳所近江所時獻

上十一月鹽松茸 酒井雅樂頭忠道播磨時獻上十一月鹽松茸 戸田采女正氏美濃教大垣